令和４年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立海津明誠高等学校 | 学校番号 | ３０

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	生徒一人一人を大切にして、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。		
2　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒	・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の３つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通した、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成	・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いをもった生徒

3　評価する領域・分野	◇進路指導
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○外部評価アンケート（令和３年度実施のもの）実施方法 ・全生徒および保護者にメールを送付、ＷＥＢで回答。 ・保護者、学校運営協議会委員では167人、生徒は190人が回答。 ・実施方法の変更により、前年度比での評価が低下。 ○アンケートの結果 【生徒】 ・「生徒に適した将来の希望にそった具体的な進路指導が行われている」という項目において昨年度に比べ低評価であった。 【保護者】 ・「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」という項目において昨年度に比べ低評価であった。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒のキャリア発達への支援　　◇大学入試改革への対応 ◇「進路サポーター制度」の充実 ◇広報活動の充実
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	（１）キャリア教育の全体計画に基づき「進路意識を高める事業」「学力を高める事業」「進路実現を支援する事業」を通して生徒のキャリア発達を全校体制で計画的・継続的に支援する。 （２）進路指導部を中心に大学入試改革に関する情報収集に努める。 （３）学年会と連携し、進路サポーター制度を円滑に運用すると共に各種ガイダンスが効果的に機能するよう図る。 （４）「進路だより」「羅針盤」やホームページを活用して情報を発信する。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）基礎学力の定着に向けた学習改善による学力の向上。ＩＣＴ機器の活用及びアクティブラーニングの授業手法を取り入れた授業改善の取組。自ら課題を発見し解決する力の育成	（１）　研究授業・公開授業の実施、授業研究会・実践発表会の実施、生徒による授業評価（年２回）の実施、ＩＣＴを活用した授業改善、言語運用能力の育成及び基礎学力の定着を意図した

。明誠スタートライン・朝読書の充実。 （２）キャリア教育の充実（進路意識の明確化、進路サポーター制度の充実及び各教科との連携、羅針盤（教師用通信）の発行 （３）特色と魅力ある学科運営、専門教育の充実（ビジネス情報科のＩＴ関係検定試験等の取組、生活デザイン科の三類型教育課程の実践、「課題研究」の推進、学校家庭クラブ活動の充実）	授業研究と指導計画の作成、定期考査問題の作成と評価、家庭学習時間調査の実施 （２）進路目標の明確化とその達成度の把握、「進路の手引き」の有効活用、インターンシップの実施と成果、補習授業の充実と模擬試験結果の考察 （３）検定試験への挑戦、学習成果発表会の開催、高齢者宅への配食サービス、家庭科関係コンクールへの挑戦、企業との共同開発、まちゼミ（商工会）の実施

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・「進路サポーター制度」	①全職員の共通理解による組織的な進路指導	(A) B C D
・『進路の手引き』ワークシートの確認	②ワークシートの有効利用	(A) B C D
・補習の強化、模擬試験結果、進路実績	③学力状況、試験結果、進路実績	A (B) C D
・検定試験や各種コンクールの出品実績	④検定試験の合格率や各種コンクールの結果	A (B) C D

12 成果・課題		総合評価
	○１年生から３年生までのキャリア教育を『進路の手引き』を活用して計画的に実施することができた。 ○２年生進学クラスの難関大学希望生徒に対する朝補習を充実させた結果、模試等で成果を上げてきている。 ○「進路サポーター制度」を活用し、３年生の進路選択から進路実現まで丁寧に組織的支援することができた。 ○教員、生徒双方ともに時間的制約などの差が大きく、進路サポーター制度の運用に影響があるので、通信「羅針盤」の発信で進路サポーターの一助とした。 ○地域創生キャリアプランナーによる履歴書指導および就職希望者全員に対する個人面談を５～８月に行い、大半の生徒が自分の進路決定に満足し効果があった。 ○６月に３年生、９月には１・２年生の保護者に対する進路説明会を実施し、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けて好評であった。 ▲国公立大学の学校型推薦に対する指導の強化を図る必要がある。 ▲進学・就職等の違いや、勉強に対する姿勢によって、基礎学力、思考力・判断力・表現力など、生徒間の差が開く傾向が強まっている。 ▲自分の進路や将来についてしっかり考えようとする生徒とそうでない生徒との差が開いており、３年生になっても進路意識をもたない生徒が若干いる。	A (B) C D

13　来年度に向けての改善方策案
・キャリア教育などあらゆる機会を通して、生徒一人一人の進路意識の高揚を図り、学力・意欲の生徒間の差をできるだけ縮小するように努めていく。
・高大接続改革や大学入試などの制度改革に伴う変化や、経済状況が不安定な中で対応できるよう情報を収集すると共に体制を整える。
・さらに積極的な検定試験の合格や家庭科各種コンクールの応募・入選に向けての指導を行う。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年１月１８日

【意見・要望・評価等】
・進路サポーターや地域共生キャリアプランナーにより個別にきめ細かい進路指導がなされている。これがより良い結果につながるとよい。
・生徒、保護者、教員が向き合って丁寧に取り組み、生徒本人の意思や保護者の考えを的確に捉えて、より良い進路選択ができる方向に向かってほしい。